



学校だより

# 伸びゆく子

平成30年9月28日  
横浜市立中沢小学校  
10 月 号

## あたたかなコミュニケーションが子どもを育てる

校長 小倉 克彦

先日、5年生の子どもたちと三浦体験学習に行きました。内容、質ともに濃密な2日間でした。その中で、特に野外炊事の場面での子どもどうしのあたたかい交流が印象に残りました。子どもたちにとっては、竈で調理をするために火をつけることは大仕事です。薪に火をつけるために用意した新聞紙や割り箸だけが燃えてしまったり、やっとな火が付いたと思ったら団扇で勢いよく扇ぎ過ぎて火が消えてしまったりと、なかなかうまくいきません。お話で聞いていた「火のつけ方」に比べて実際に火をつけることの難しさを十分に味わったことでしょう。そんな状況でも、子どもたちは「薪の置き方をやり直そう」「そっと扇いでみよう」などと活発にアイデアを出し合います。そのうちにいくつかのグループの竈に火がつき歓声が上がります。火がつかないグループの子どもたちからは「いいなあ」「どうしたら・・・」と焦りが見え始めます。そのうちに火がついたグループの子どもたちが応援に来ます。「火がついた薪をもって来るね」と火をわけてくれる子もいます。最後はどのグループも火がつかしました。「熱いから気を付けてね」と話しても子どもたちの顔が竈についつい近づいてしまいがちです。カレーが煮える鍋を囲んだ子どもたちの顔はみんな笑っていて輝いて見えました。出来上がったカレーの仕上がりは、普段、給食やお家でいただくカレーほどの完成度ではなかったかもしれませんが、どの子も心から「美味しいね」と喜びを共感しながら食べたことでしょう。互いのグループのカレーを試食し合い「美味しいよ」と言い合う様子もとても微笑ましかったです。子どもたちにとっては、普段「なかなかうまくいかない」経験は少ないと思いますが、今回のような状況がたくさんのコミュニケーションや協力を生みだし、子どもどうしの2日間のあたたかなかわり、協力していこうという意欲、雰囲気づくりにつながったと思います。大きな収穫を実感した体験学習でした。

さて、話は変わりますが、最近、SNS やインターネット等による人間関係のトラブルや被害の話題を耳にします。警察等の情報によりますとインターネット等を通じて知り合い、小学生だと思って交流していた相手が実は成人だったり、交流の中で個人の写真などの情報が流出してしまったり、お金をとられてしまったりするなどの被害が数多く発生しているとのこと。また、友だち同士のやりとりでも相手の表情が見えなかったり、表現が不十分で真意が伝わらなかったりすることでトラブルになり、いじめや誹謗中傷に発展し拡散してしまうなど深刻な問題も起こっています。

あたたかで豊かな人間関係を構築するためにも、SNS などのトラブルを防ぐためにも、相手としっかり向き合い、直接、顔と顔を合わせてコミュニケーションすることの大切さを子どもたちに経験を通して教えていくことがわたしたち大人に求められていると改めて実感しているところです。